



日本の終焉

令和6年4月2日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

財政と周辺諸国における問題は、日本の終焉を予測させる。これらは世界が新たな世代の技術における自己転換を有することへの落伍などとともに、自己の未来という現実への葛藤を問うものである。

既得権益は、未来を可能としないという現実の一つの真実なのである。自らの努力が報いられない世界は、正直者が馬鹿を見る世界であり、誤りなのである。

これは正しい国家構築が、世界の現実への正しい判断と倫理的崇高さにおける自己が、唯一未来という現実を可能とすることは真実なのである。

これらは次世代という新しい現実に対する日本の明らかな未熟さなのである。国家システムや環境が以前世代の現実と基準において存在するためである。

これらは在日米軍の現実に対する自衛隊幹部における判断と完全に同じなのである。

これらはパワーゲームという現実においてもはや世界のトッププレゼンスへの到達は不可能なのである。

それは真実は国家の財政と産業構造においても等しい。

これら判断は必ず世界の理解と同じであるため、世界がそれら判断とともに自己を行うことは正しいのである。

これらは力と競争という現実に対して、それらに対して対等性を求めることができないのである。

これら理解における判断は新しい健全な国家構築への移行と次世代という現実に対してそれと同等の基準における産業や環境の整備を行うことが唯一の選択となるのである。

これらは唯一政治判断であり、国民はそれに従う以外選択はないのである。

